

原子力安全協定の早期締結を

会派として要望書提出

11月議会では中国電力との原子力防災協定締結も議論されました。県が交渉の末、県議会に提示した協定案は残念ながら、原発稼働や計画変更に対する「事前了解」は「事前に通告し、意見は尊重する」、「立入検査」は「現場確認」というところまで。不満が残る内容です。

福島第一発電所事故からわかるように、原発事故の被害は広範囲に及びます。

セシウムなどの放射性物質が「ここが県境ですの」でと止まってくれるわけはありません。境水道で隔てられているという理屈で、被害が及び可能性が高いのに、ずっと蚊帳の外に置かれ、悔しい思いをしてきたのが鳥取県です。県西部の県民の皆さんの不安に思いを寄せるとき、私は中電の対応に不快感を感じます。

では、卓袱台をひっくり返すようにして交渉の席を立つべきなのでしょうか。私は問題の多い、欠陥協定だと考えていますが、まずは締結して、法的地位を得るべきだと思います。その後、改訂交渉を継続して、協定をバージョンアップしていけばいいのです。

会派「かけはし」では12月14日に早期締結と、締結後も改善交渉を続けることを求めた要望書を提出。15日の全員協議会でも、その主張しました。



赤井孝美さんの「ネギマン」を米子の漫画制作プロダクション「ラ・コミック」の寺西竜也さんが漫画にした冊子を示し、本会議で補正予算への賛成討論をしました

補正予算案に賛成討論 マンガはコンテンツ産業

11月議会最終日、知事提案の補正予算案のうち、マンガサミット関連予算など3点について、共産党県議が本会議で反対の討論をされましたので、私は賛成の立場から討論をしました。

共産党の主張は、深刻な不景気で県民が困っているときに、マンガサミットで浮かれている場合ではな

く、県をPRする予算はいらない。また、県民が1人も乗ることができない豪華な外航クルーズ船のための浚渫工事認められないというものでした。

私はマンガやアニメ関連産業は37兆円の市場規模があり、すでに、自動車産業を凌駕している。不況だからこそ、マンガやアニメを

使って産業を振興して、雇用状況を少しでも改善すべきだ。「マンガやアニメは子どもの遊び」という認識は何十年前のもので、認識を新たにしたい。地域間競争が激化している中、鳥取産品を販売するには鳥取のイメージアップが必要。マンガサミットのPR費が予算の中にあるから

と反対すべきではない。浚渫費については、入港が予定されているコスタ・ヴィクトリアはイタリア船籍で、ハーモニープリンセスは韓国船籍。外国の富裕層を県内に連れてきてくれる船で、もともと県内からの乗船は予定されていない。県内観光で数億円規模の消費が予測されるので、3000万円の浚渫で入船が可能となるなら進めるべきだと、主張しました。

パワーポイントが使えない？

鳥取県議会

鳥取県議会では議会改革推進会議を設け、審議能力が高く、しかも、開かれた議会を目指して様々な議論を進めており、私も委員のひとりです。12月の会議でわかりやすい議会を目指し、本会議場でパワーポイントの本会議で使うことを提案したので、M議員が「議会は会議じゃない」と反対されたんです。

「県民の皆さん、つまり、有権者に分かりやすい議論が大切だと思いませんか」と反論すると、「議会は議員同士が議論をするところ。有権者は関係ない」と言い切るM議員に、私は本当に驚きました。議会は常に進取の気風が大切で、有権者を大切にしないといけません。もちろん守らねばならない良習や伝統もありますが、因習に捕らわれ、新しいことを嫌う頑迷さには呆れます。

ブログを駆使して情報を発信したり、若者以上に柔軟な発想をされるベテラン議員も多いために非常に残念です。